

2019～2020 年度 桑沢デザイン研究所  
教育研究助成金 研究成果報告書

開校 100 年  
「きたれ、バウハウス —造形教育の基礎—」展 の記録

小関 潤



## ■はじめに

本校の設立、教育方針に大きな影響を与えたバウハウスは、2019年に開校100周年を迎えた。

国内では「バウハウス100周年委員会」が発足し、「バウハウス100ジャパン」プロジェクトが展開された。そのプロジェクトの一環として2019年8月から2020年9月まで、新潟市美術館、西宮市大谷記念美術館、高松市美術館、静岡県立美術館、東京ステーションギャラリーの全国5会場で、「開校100年きたれ、バウハウス一造形教育の基礎」展が開催された。

ここで展示される「触覚板」の制作協力を「バウハウス100周年委員会」運営事務局・本展監修者（ミサワホームバウハウスコレクション学芸員・本校非常勤講師）の杉田佳穂氏から依頼され、同展の開催期間中に各会場での撮影記録を本校教育研究助成金によりおこなった。

## ■展覧会概要

同展は第1章から第5章で構成され、第1章「学校としてのバウハウス」では、1919年の設立から1933年閉鎖までの沿革や出版物など資料の展示。第2章「バウハウスの教育」では、学生が入学後に受講を義務付けられた予備課程（基礎教育）の教育、課題や作品の紹介。第3章「工房教育と成果」では、基礎教育を終了した後に進む、家具、金属、陶器、繊維、壁画、彫刻、印刷・広告、版画、舞台、建築の10の専門課程（工房教育）の作品の展示。第4章「総合の位相」では、1923年のバウハウス展などの作品の展示。第5章「バウハウスの日本人学生」では、日本人留学生の水谷武彦氏、山脇巖・山脇道子夫妻、大野玉枝氏を紹介している。全体で約300点におよぶ膨大な資料や作品群を展示する、国内では最大級の展覧会となった。

同展の特徴は、バウハウスから生み出された作品ではなく、その教育内容に焦点をあて、来場者は課題内容や学生の作品を鑑賞しながら、まるでバウハウスに入学したかのように、バウハウスの教育を追体験できる点にある。特に革新的な造形教育がおこなわれた、第2章の基礎教育に重点が置かれた展示がおこなわれた。

## ■第2章「バウハウスの教育」・「触覚板」

第2章では、カンディンスキー、パウル・クレー、ヨハネス・イッテン、モホイ＝ナジ、ヨゼフ・アルパースなど各教師の基礎教育の授業内容や学生の作品を紹介している。

その授業の一端を来場者が実際に体験できる展示として、基礎教育の課題などを再現した「触覚板」、「回転混色」〈図1〉、「光の彫刻」、「色の影」〈図2〉、「マッチ棒による造形」、「組み合わせ文字」〈図3〉が展示された。

「触覚板」はモホイ＝ナジの基礎教育で最初に学ぶ、素材を用いた触覚訓練のための課題である。学生がさまざまな素材を集めて並べ、それぞれの触感を数値化し、グラフにして視覚化をさせた。視覚化によって、他者との共有や比較、分析が可能になり、主観的な感覚を客観的に把握、理解させた。

モホイ＝ナジは特に根源的な感覚とも言われる触覚の訓練を重視し、このような感覚的経験によって情緒と思考を発達させることを目指した。それが誰でもが持つ創造力を喚起させ、基礎教育終了後に進む専門課程での独創的な作品を生み出す基礎となった。

同展では、来場者にグラフ用紙を配布し、29種類の「触覚板」を触って「ざらざら・なめらか」、「やわらかい・かたい」、「つめたい・あたたかい」の触感を数値化して折れ線グラフに描く体験をしてもらった。また、素材の見た目と実際に触った感覚の違いへの気付きや、触感を言語化してみることを促すキャプションが設置された。

## ■「触覚板」の制作の経緯

〈図4・5〉の「立方体素材集」は、私が1998年より素材の特性とその体験をテーマとして制作をおこない、授業での活用や研究レポートの発表をおこなってきた教材である。いわば「触覚板」を立体化し、素材の表面に触れるだけでなく、素材を手を持つことでその空間や重さの感覚を含めた体験を可能にしたものである。

この「立方体素材集」を杉田氏に紹介したことが、今回の「触覚板」の制作協力の発端となった。杉田氏が学芸員を務めるミサワホームバウハウスコレクションと、桑沢学園学事振興資金の援助を受け、共同制作という形で制作をおこなった。

杉田氏と「触覚板」の素材を留める台座などの制作を担当した株式会社テラの竹下圭子氏と打ち合わせをおこない、まず「触覚板」の形状と、素材の選定は身の回りにある素材や現代の日用品を使うことを基本方針として決めた。また、「硬・軟」、「粗・密」、「温・冷」、「乾・湿」、「弾性」、「ふわふわ」、「ちくちく」、「変化」、「なでる」、「押す」、「認識する」など触覚に関わる言語のリストをつくり、できるだけ多くの触覚を網羅するように努めた。

加えて、来場者が実際に触るものなので、離脱や破損、怪我などの安全性に特に注意して素材を選定し、制作をおこなった。

「触覚板」リストの詳細は後述するが、金属やプラスチック、木、紙、皮革、布、石、ガラスなどの素材から、木目調シート、ヨガマット、畳、気泡緩衝材（プチプチ）、シリコン雑貨、ダウンジャケット、タワシ、レジ袋、鉛筆、電卓キーボード、点字、感温シートなど94種類の制作をおこなった。

## ■ 展覧会の開催・記録

2019年8月に新潟市美術館から巡回がはじまった。各館における「触覚板」の展示は、94種類の中から各館が選択し、壁面貼りや平置きの展示台に設置された。

新潟市美術館には、その準備期間と開催中に各1回訪館し、展示状況の確認、見学、記録をおこなった。また西宮市大谷記念美術館ではオープニングレセプションにも参加し、前国立国際美術館館長・「バウハウス叢書」日本語版編集委員の宮島久雄氏、東京都立大学客員教授の長田謙一氏にお会いする機会を得た。

しかし、2020年2月の高松市美術館、2020年4月の静岡県立美術館は、新型コロナウイルスの感染拡大による県外移動自粛などにより、訪館することができなかった。そのため各美術館の学芸員の方から提供いただいた画像を掲載している。両館では講演会やワークショップなど多くのイベントが中止になり、静岡県立美術館では開催期間の半分近くの臨時休館を余儀なくされた。また、「触覚板」などの体験型の展示も接触感染防止のために、パーテーションロープの設置などにより見学のみとする措置などが取られた。

東京ステーションギャラリーは予約制の入場制限が取られながらも開催されたが、「触覚板」は体験型ではなく、「手を触れない」ことを前提とした展示になり、制作や展示の意図が伝わりにくい形になってしまった。

## ■ おわりに

新型コロナウイルスの感染拡大以降、展覧会だけでなく、演劇、コンサートなど文化・芸術活動は大きな影響を受け続けている。そのなかで同展は一時休館や体験型展示の中止があったにせよ、全ての会場で開催することができた。

本展監修者の杉田氏、深川雅文氏（キュレーター・クリティック）、各館学芸員など関係者の皆様に心より感謝と敬意を表します。

今回制作した「触覚板」は新型コロナウイルスの感染状況を鑑みつつ、本校などで展示する機会をつくればと考えている。

「回転混色」<図1>



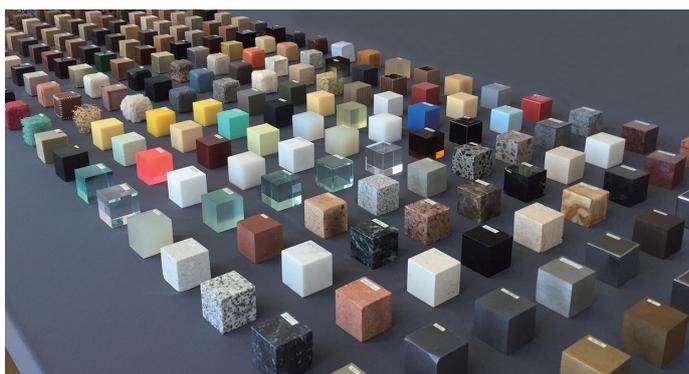
「色の影」<図2>



「組み合わせ文字」<図3>



「立方体素材集」<図4>



「立方体素材集」<図5>





<触覚板 キャプション>

触覚板 モホイ=ナジの授業

モホイ=ナジにない、現代の私たちの身の周りにある様々な素材を集めて、触覚板を作りました。触ってみてください。違いがわかりますか？眼を瞑って触るとより効果的です。

柔・堅・滑・粗・乾・湿の程度を折れ線グラフで表わすとどうなりますか？

それは他の人と同じ線になりますか？

モホイ=ナジの授業では、さまざまな素材の触覚訓練から始めて、加工による表面処理や材料の構造分析などの体験によって材料を把握する。たとえば、触覚板は、柔・堅・滑・粗・乾・湿などさまざまな触覚を持つ素材を集め、並べて構成したもの。学生たちは自分の身近にある素材をあちこちから調達し、手を滑らせることで様々な素材の触感が体験できる装置を作った。また、木や紙などの1つの素材を、表面加工を施すことによって様々に変化させたものも作っている。これらの実習はイッテンが行っていたものを引き継いだようなかたちだが、イッテンと異なる点で非常に興味深いのは、完成した触覚板のその感覚の変化をグラフや図形で示したことだ。触覚という非常に個人的で他者と比較共有しにくい体験を、あえて視覚化させることで共有し、話ができるようになるのである。

ここで初めて学生たちは、誰もが自分と同じ感覚を持っているはずだという無意識の思い込みを目の当たりにする。

再現・触覚板制作：専門学校 桑沢デザイン研究所

触覚板 モホイ=ナジの授業

Let's Try!

触覚板を触ってみよう。

見た目と、実際の感覚の違いはありますか？

触覚を言語化してみよう！

あたたかい

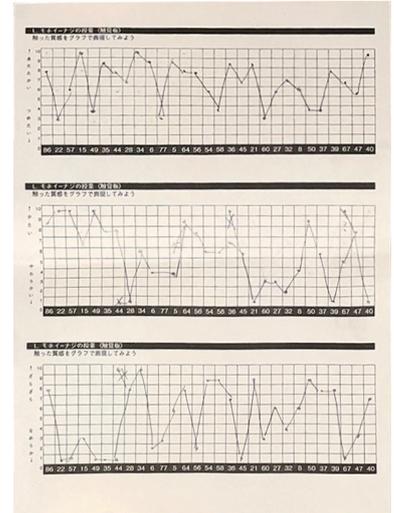
つめたい

かたい

やわらかい

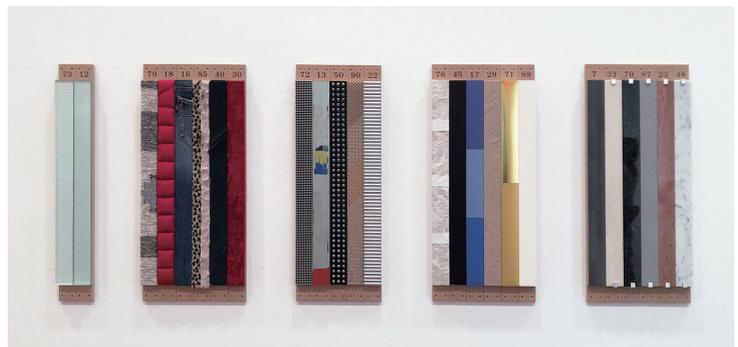
ざらざら

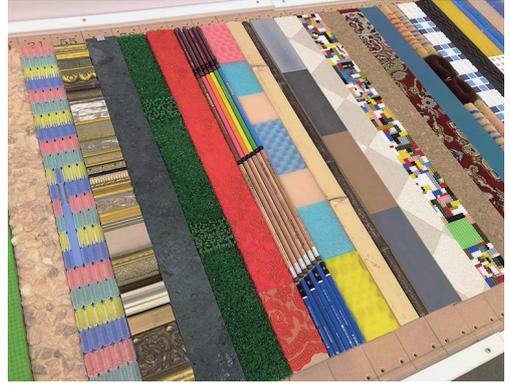
なめらか



<来場者によるグラフ>

西宮市大谷記念美術館：2019.10.12~12.1





高松市美術館：2020.2.8～3.22

**Kommt ans Bauhaus!**

**きたれ、バウハウス** 2020.2.8(土) 3.22(日) 高松市美術館

造形教育の基礎 開校100年

Come to Bauhaus! The spirit of Bauhaus is in us and Open 100th Anniversary of the Founding of Bauhaus

高松市美術館 Takamatsu Art Museum

ドイツと日本 (Deutsches Japan) ともに築きあげ

interoffice A.I.J.

高松市美術館 TAKAMATSU ART MUSEUM

〒760-8555 高松市東三軒がし 1-1-1 TEL:087-823-1711

1919年、ドイツの古都ワイマールに、建築家ヴァルター・グロピウスにより造形学校「バウハウス」が開設され、昨年、その誕生から100年目を迎えました。ナチスの弾圧を受け1933年に閉鎖されるまで、わずかに年という短い活動期間でしたが、実数精神に富んだこの学校は、造形教育に革新をもたらしました。今日にいたるまでアートとデザインに大きな影響を及ぼしています。バウハウスでは、ヴァン・ド・ヴェーク、カンディンスキー、ハール・ワグネルなど時代を代表する芸術家たちが教師として指導にあたっており、優れたデザイナーや建築家が育ち、画期的なデザインが生まれました。とりわけ入学した学生が最初を受ける基礎教育で教師たちが試みた授業はユニークなものでした。本展覧会では、バウハウスの基礎教育を中心とした各教師の授業内容を紹介します。そのほか、その一編を体験していただけます。さらに、そこから発展した様々な工芸(金工、陶芸、織物、家具、印刷・広告、舞臺など)の授業や資料と約300点の展示、また、実際にバウハウスに入学した日本人留学生・水谷宗彦、山崎道子、大野玉枝、4名の活動を一堂に紹介する初めての機会となります。

**見る。触れる。体験コーナー**

**触覚版**  
モノクロの授業では「赤・青・黄緑を混ぜて黄緑の变化を体験できるカラー」を制作する課題が設けられました。

**回転選色**  
学生ながら色影ゼミナールを主宰したハル・ワグネルの「色影版」(色影板)の色分けされたプレートとマスキングテープを使って、色影の原理(色影板)の仕組みを体験していただくことができます。また、色影の原理(色影板)の仕組みを体験していただくことができます。

**光の彫刻**  
彫刻工場で制作された実験。彫刻の心と色影板の原理を結びつけている。色影板の原理(色影板)の仕組みを体験していただくことができます。

**色の影**  
実験の色とそれにより生じる影の色の関係について学ぶ。色影板の原理(色影板)の仕組みを体験していただくことができます。

**マッチ棒による造形**  
ワグネルの授業で制作された実験。学生が制作したマッチ棒による造形。色影板の原理(色影板)の仕組みを体験していただくことができます。

**組み合わせ文字**  
円、正方形、14円角の3つの異なる組み合わせでアルファベット、数字、記号を表現する。

**入場料** 一般1,000円(800円)、大学生500円(400円)、高校生以下無料

【記念講演会1】  
2月8日(土) 13:30~15:00(13:00開場)  
【バウハウスの授業と学生生活】  
講師：松田経典氏(バウハウスの講師・卒業生)  
会場：1階講堂 定員：定員100名 料金：無料

【記念講演会2】  
3月7日(土) 13:30~15:00(13:00開場)  
【高松から始まる戦後モダニズム -建築家・山口文象と田高松市立美術館-】  
講師：徳富弘史氏(田高松市立美術館学芸員)  
会場：1階講堂 定員：定員100名 料金：無料

【再現授業】  
2月29日(土) 14:00~15:30(13:30開場)  
【ヨハネス・イッテンのデッサン】  
講師：徳富弘史氏(田高松市立美術館学芸員)  
会場：1階講堂 定員：定員60名(40名以上) 料金：無料  
申込：2月15日(金) 9:30~(申込受付終了)  
内容：呼吸法や姿勢を取り入れたユニークなイッテンのデッサンの授業を再現し、体験していただきます。

【ワークショップ】  
2月22日(土) 10:00~12:00  
【バウハウスであそぼう!】  
講師：山崎道子氏(田高松市立美術館学芸員)  
会場：1階講堂 定員：定員50名  
申込：2月15日(金) 9:30~  
内容：バウハウスの授業で学んだ課題をもとに、造形的な遊びをお楽しみいただけます。

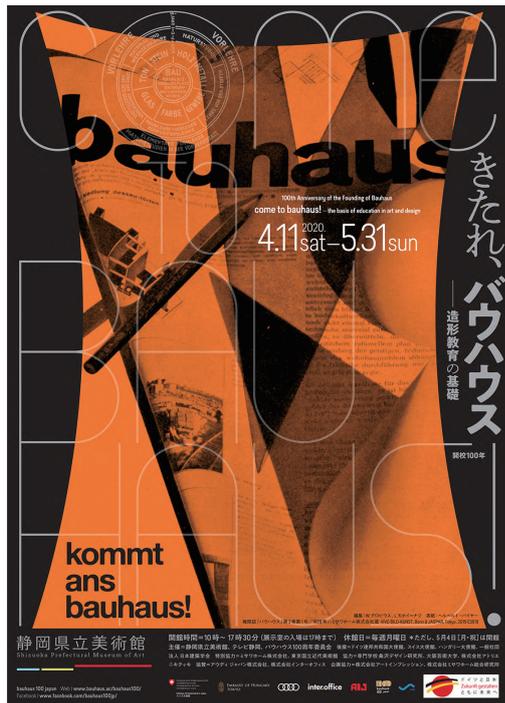
【エンタランス・ミニコンサート】  
3月15日(日) 13:30~14:00  
演奏：徳富弘史氏(ピアノ) 講師：1階エンタランスホール  
申込：予約要 料金：無料

【チャリティーオークション(展示解説)】  
2月25日(土) 14:00  
ボランティア：会期中の日曜日・祝日 14:00  
会場：1階16号展示室 料金：要観覧券

◆関連イベントのお問合せ・お申込みは高松市美術館(電話087-823-1711)まで  
◆詳細は展示次覧チラシ・ホームページをご覧ください。



静岡県立美術館：2020.4.11~5.31





■「触覚板」



## ■「触覚板」リスト

番号 素材名・一般名称・種類・仕上など

- 1 銅
- 2 木目調シート (塩化ビニル樹脂)
- 3 針葉樹：スギ (浮造り仕上+ウレタン塗装)
- 4 自転車タイヤ (ゴム)
- 5 ヨガマット (塩化ビニル樹脂)
- 6 アクリル樹脂
- 7 壁材 (多孔質セラミックス)
- 8 シリコン樹脂 (鍋つかみ / 鍋敷き / 水切り)
- 9 馬革+カシメ
- 10 ひも (たこ糸 / 紙 / ポリプロピレン樹脂 / 麻)
- 11 ウェットスーツ生地 (ナイロン+クロロプレンゴム)
- 12 すりガラス
- 13 ステンレス (鏡面仕上)
- 14 大理石：インド蛇紋
- 15 鉛筆 / 色鉛筆 / 鉛筆 / 鉛筆
- 16 ジーンズ (コットン)
- 17 紙：ユニテック GA 青紫 / レザック 75 藤 / マーメイド 群青
- 18 ダウンジャケット (ナイロン+ダウン90%+フェザー 10%)
- 19 タイル+目地材
- 20 畳 (いぐさ+フェルト芯)
- 21 歯ブラシ (ナイロン+ポリプロピレン樹脂)
- 22 アルミパイプ
- 23 大理石：レッドトラバーチン
- 24 ビニールバッグ (塩化ビニル樹脂)
- 25 広葉樹：ウォールナット
- 26 ホース (塩化ビニル樹脂)
- 27 ブルーシート (ポリエチレン樹脂)
- 28 スポンジ (ポリウレタン樹脂 / ポリエステル不織布)
- 29 和紙：もみ紙 (楮)
- 30 チンチラ生地 (アセテート 75%+ポリエステル 15%+ナイロン 10%)
- 31 点字 (点字シート)
- 32 合皮 (ポリウレタン樹脂+ウレタンフォーム下地)
- 33 灰岩：モカクリーム
- 34 麦わら帽子 (麦わら)
- 35 針葉樹：ヒノキ
- 36 コルク (広葉樹：コルクガシ)
- 37 マジックテープ (ループ面 / フック面)
- 38 鏡 (広面取り加工)
- 39 気泡緩衝材：d42
- 40 フリースジャケット (ポリエステル)
- 41 山羊革 (ウレタンフォーム下地)
- 42 OSB 合板
- 43 絨毯 (ポリプロピレン)
- 44 耐衝撃性塩ビ管 / 塩ビ管 (硬質塩化ビニル樹脂)
- 45 ニス印刷 (マットコート紙+墨+ニス印刷)
- 46 ダンボール
- 47 ストロー (紙 / ステンレス / ポリプロピレン樹脂)
- 48 大理石：ピアンコカラーラ
- 49 感温シート
- 50 スタッズ+牛革
- 51 チップウレタンフォーム
- 52 低反発ウレタンフォーム
- 53 広葉樹：ナラ (オイル仕上)
- 54 ブロック (ABS 樹脂)
- 55 額縁
- 56 フローリング (広葉樹：オーク合板)
- 57 ABS 樹脂 (鏡面メッキ仕上)
- 58 電卓キーボード (ABS 樹脂)
- 59 クロロプレンゴム
- 60 和紙 (三椏)
- 61 すだれ (竹)
- 62 広葉樹：コクタン
- 63 鹿革 (ウレタンフォーム下地)
- 64 点字ブロック (ノンスリップ加工)
- 65 紙：オフメタル LP 銀 / オフメタル 銀
- 66 蛇革
- 67 玉砂利+モルタル (着色)
- 68 人工木 (木粉+樹脂)
- 69 チュールレース生地+サテン生地
- 70 御影石：エメラルドパール
- 71 紙：オフメタル 金 / ハイピカ E2F ゴールド
- 72 スチール球
- 73 ガラス
- 74 真鍮
- 75 たわし (ヤシ / シュロ / ヤシ / ヤシ)
- 76 和紙：雲龍 (楮)
- 77 牛革+カシメ
- 78 人工芝 (ポリプロピレン / ポリエチレン樹脂)
- 79 マット (ウール 90%+コットン 10%)
- 80 砕石+白色セメント (着色)
- 81 レジ袋 (ポリエチレン樹脂)
- 82 紙やすり (空研ぎ # 600 / 耐水 # 100 / 木工 # 180 / 耐水 # 1500)
- 83 ポリプロピレン樹脂 (トレイ / バスケット / トレー)
- 84 軽量粘土+真空パック
- 85 フェイクファー (アクリル 80%+レーヨン 8%+ポリウレタン 7%+ポリエステル 5%)
- 86 竹 / 黒竹
- 87 モルタル (セメント+砂)
- 88 壁紙 (塩化ビニル樹脂+紙)
- 89 洗濯板 (広葉樹：サクラ)
- 90 釘 (スチール) / ナベビス (ユニクロメッキ) / 釘 (真鍮) / 皿ビス (ステンレス) / 六角ボルト (ユニクロメッキ)
- 91 クッションフロア (塩化ビニル樹脂)
- 92 人工大理石 (アクリル樹脂)
- 93 スチールパイプ (クロームメッキ)
- 94 磨き丸太 (針葉樹：スギ)

## ■「開校 100 年 きたれ、バウハウス ー造形教育の基礎ー」展

主催 新潟市美術館／西宮市大谷記念美術館／高松市美術館／静岡県立美術館／高松市美術館／東京ステーション  
ギャラリー／バウハウス 100 周年委員会 他

後援 ドイツ連邦共和国大使館／スイス大使館／ハンガリー大使館／一般社団法人日本建築学会 他

特別協力 ミサワホーム株式会社／東京国立近代博物館

協力 専門学校 桑沢デザイン研究所／大阪芸術大学／株式会社 アトリエ ニキティキ 他

協賛 アウディ ジャパン株式会社／株式会社インターオフィス

企画協力 株式会社アートインプレッション／株式会社ミサワホーム総合研究所

監修 杉田佳穂／深川雅文

## ■参考文献

「開校 100 年 きたれ、バウハウス ー造形教育の基礎ー」図録．深川雅文・杉田佳穂監修．2019

「ザ ニュー ヴィジョン」．L・モホリ＝ナギ．大森忠行訳．ダヴィット社．1967

「材料から建築へ」．L・モホリ＝ナギ．宮島久雄訳．中央公論美術出版．2019

「バウハウスにおけるモホリ＝ナギの基礎課程」．宮島久雄．1979

## ■画像提供

高松市美術館

静岡県立美術館

## ■助成・援助

本展記録 専門学校 桑沢デザイン研究所 教育研究所助成金

「触覚板」制作 桑沢学園 学事振興資金